

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 10 期関市まちづくり市民会議は、令和 3 年 11 月にスタート。全体回や、毎月 1～2 回程度の部会による話し合いを 10 回以上開催し、政策提案発表会に向けて検討してきました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、22 名の公募の市民により構成され、10 代～80 代の幅広い年齢層となっております。今期の市民会議は、調査活動や実践に重きを置きました。調査活動や、担当課を交えて議論したことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても検討することができています。

部会名	取組む課題
チーム「わかもの」	関市在住・在勤の 独身の社会人が つながる官民協働の次世代マーケティング課の創設
チーム「ゴミ分別」	ゴミ分別情報の周知徹底
チーム「中学生の食育」	中学生が自分の体づくり（栄養）について学び、実践できる機会づくり

〈まちづくり市民会議の歩み〉

	開催日	会議内容
第 1 回	令和 3 年 11 月 14 日	問題意識の発表会
第 2 回	12 月 12 日	部会分け、取組む課題を考えよう
第 3 回	令和 4 年 1 月	取組む課題・目指す姿を考えよう 関係者ヒアリング・視察をしよう
第 4 回	2 月	グループワーク・事業を考えよう
第 5 回	3 月	グループワーク・事業を考えよう 事業計画書にまとめよう
第 6 回	4 月	事業計画書にまとめよう
第 7 回	5 月	調査活動・小規模で事業をテスト実施しよう
第 8 回	6 月	まとめ・発表準備
第 9 回	7 月	
第 10 回	8 月	政策提案発表会
第 11 回	9 月	最終回：ふり返り・提案を受けて、担当課と委員で来年度実施に向けて協議しよう

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第9期の関市まちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

※これまでの提案の詳細については、関市市民活動センターホームページまたは「しっぷす」よりご確認ください。

【第1期】



提案
1

「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をした本の感想を共有し、親子読書の様子を発表するコンクールを開催してください。

結果	採用
実施状況	<p>平成25年度に「ファミリー読書発表会」としてスタートしました。具体的には、学校等から推薦のあった家族の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表等を行いました。平成30年度から、ビブリオトークに変更し、本の紹介をトーク形式で交流することを中心に実施し、夏休み中の読書意欲を喚起するようにしました。内容としては、小中学生が、これまでに読んだ本の中から、お勧めの本を1冊取り上げ、その本の魅力を紹介するものになります。</p> <p>昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむを得ず中止しましたが、本年度は、感染対策を十分に行ったうえで、7月27日に実施しました。</p>

提案
2

「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小中学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施してください。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	<p>平成24年度から行っている「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。</p>



提案
3

「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成してください。

結果	採用
実施状況	<p>保護者はもちろんのこと、地域住民の学校への理解を深め、地域の学校としての位置づけを高めるため、学校の情報を積極的に発信する一助としてHPの工夫改善に取り組んでいます。</p> <p>また、HP運営について新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。現在は、統廃合により小学校19校、中学校9校の合計28校でHPを公開しています。</p>

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebookグループ等のSNSを活用してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとどうしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。</p>

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切ですが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれます。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うなど実施してください。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思ひます。



提案
6

「関シティバス・デマンドバスの導入」(市民協働課)

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスを導入してください。

結果	採用
実施状況	富野、田原、迫間、向山地域はデマンドバスで、下有知、瀬尻・広見地区は、デマンド乗合タクシーで運行しています。 地域や利用者の要望をお聞きし、時刻表の改正時期に合わせて、定期的に乗降所の新設を行っています。なお、平成31年4月から、ファミリーマートと協定を結びました。利用者や運転手が待ち時間内に店内を利用でき、利便性の向上が期待できることから、デマンド乗合タクシーの運行エリア内の全店に乗降所を新設しました。

提案
7

「シティバス・定期乗車券の導入」(市民協働課)

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券を導入してください。

結果	不採用
担当課からの回答	定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割り引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。

提案
8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」(市民協働課)

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行って行く中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。</p> <p>現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいておりますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。</p>

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」（市民協働課）

概要) 新たな利用者を増やすため観光事業と連携してください。(例：1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等)

結果	不採用
担当課からの回答	<p>平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。</p>

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」（市民協働課）

概要) 観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車を復活してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>平成 26 年 3 月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。</p> <p>長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。</p> <p>現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。</p>

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要) 市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めてください。また、継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ってください。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要) より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置してください。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たすようにしてください。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案
3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要) 子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらえるよう、「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等を実施してください。関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。 また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにし

	<p>て、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。</p> <p>関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間（8月26日～29日）に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。</p>
--	---

提案
4

「キャリア教育の日の制定（学校教育課）」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。</p>


提案
5

「市長、部長インターンシップ」（職員課）」

概要) 関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を実施してください。

結果	採用
実施状況	<p>大学や若者の要望・意見等により提案された内容を一部修正し、平成27年度より若者の行政に対する仕事理解と職業観の育成を目的としたインターンシップを実施しています。</p> <p>対象：高校生から大学生まで 期間：8～9月のうち、2日～5日間程度 募集人数：20人程度</p>


提案
6

「学生による投票率アップチーム結成」（総務管財課）」

概要) 若者の投票率を上げるために、若者による若者に向けた投票率向上を訴える広報を考える事業を実施してください。

結果	採用
実施状況	平成26年度公募により、若者による啓発グループ「IKOMA Iプロジェクト」を結成しました。成人式や開まつりなどの行催事や大型店舗にて投票率向上のための啓発活動を行っています。

提案
7

「高齢者いつでもサロン」（市民協働課、高齢福祉課）

概要）高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を実施してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会（概ね小学校区を単位として設置）の取り組みとして提案していきたいと考えています。</p> <p>提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。</p>

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」（企画政策課、高齢福祉課）

概要）高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を設けてください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。</p> <p>シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。</p>

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」（高齢福祉課）

概要) 提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を実施してください。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	<p>まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。</p> <p>地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。</p>

提案
10

「幸せ創造授業」（学校教育課）

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間を設けてください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。</p>

提案
11

「幸せ実現企業」（商工課）

概要) 提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場「ビジネスアイデアコンテスト」を開催してください。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案な</p>

の回答	ので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているのので、提案の報告をしながら検討してまいります。
-----	---

提案
12

「幸せ応援行政」(商工課)

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートしてください。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業 2 にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第 3 期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」(観光交流課)

概要) 各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供してください。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市(行政が)中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。</p> <p>→(現在の状況)今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。</p>

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」(観光交流課)

概要) 千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が会う機会を創出してください。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課（公民館）における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。</p> <p>→（現在の状況）今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。</p>



「わかもの活躍サポートセンターの設置」（市民協働課）

概要）高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>令和3年度まで関市市民活動センターの事業として継続して「関のわかもの会議」を実施しました。同年若者の集う拠点として本町6丁目に「あいせき」ができたこと、また市民協働課にて「若者チャレンジ支援コーディネーター」が設置されたことにより、支援体制を集約することにしました。</p>



「若者まちづくり会議の開催」（市民協働課）

概要）関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも開催してください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>関市では、平成28年度から高校生を対象とした「まちづくり倶楽部」が実施されました。平成29年度には高校生の主体的なまちづくり活動を目的とした「VSプロジェクト」の活動へ移行しています。</p> <p>また、令和3年度までは関市市民活動センターの事業として「関のわかもの会議」を定期開催しました。プロジェクトメンバーによる課題解決型の事業の実施や自分たちのやりたい企画の実践、関市内の見学、多様な方々との交流などを行っております。</p> <p>将来的には、関市のまちづくりプレーヤーに繋がることを目標に事業を推進しています。</p>

提案
5

「新ブランド『刃モノー生モノ』の設立」(商工課)

概要) 新ブランドとして『刃モノー生モノ』を立ち上げてください。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	不採用
担当課からの回答	関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えています。

提案
6

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」(商工課)

概要) 関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ってください。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思えます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」(危機管理課)

概要) 市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催してください。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施してください。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。

提案
8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」(危機管理課)

概要) 運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用DVDとともに防災啓発用DVDを視聴できるようにしてください。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず3~5年に1度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となります。

結果	不採用
担当課からの回答	関市で実際に発生した災害を題材とするDVDについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVDの制作を検討します。また、関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いDVD製作の検討を進めます。

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」(危機管理課)

概要) 行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催してください。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができます。

結果	不採用
担当課からの回答	非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。

【第4期】

提案
1

「若者向けのアプリ、メールでの関のお店情報配信（安心メール活用）」
（市民協働課）

概要）安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加してください。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やPRなど若者に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。</p> <p>あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。</p>

提案
2

「学生を中心とした関の魅力的な店舗の情報紙作成及び入学式での配布」
（市民協働課）

概要）現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げてください。また、市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布してください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>中部学院大学と関市観光協会が協働で「せきたびものがたり 学生編」という冊子を作成しました。大学生が実際にフィールドワークを行いおすすめ観光スポットを紹介しています。</p>

提案
3

「路線バスを使った観光モデルコースの作成及び路線バスの乗り方講習会の開催（市民協働課）」

概要) 今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ってください。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーも考案してください。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の1日目に、案内人もついでに路線バス乗り方講習会を実施してください。

結果	採用
担当課からの回答	公共交通を使った市内の観光スポットを巡る4つのモデルコースを平成29年8月広報で特集しました。モデルさんにコースを回ってもらい、感想を記事にしています。 また、岐阜バスと連携し、路線バスの往復乗車券と武芸川温泉又は上之保温泉施設の入浴券をセットにしたお得なきっぷの発売を企画し、平成30年9月から販売を開始しています。

提案
4

「関市における貧困家庭の数を把握する『相対的貧困率』の調査の実施」
(福祉政策課)

概要) 世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態を調査してください。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。


提案
5

「学習支援の実施」(福祉政策課→子ども家庭課)

概要) 定期的(週1回、2回程度)な学習支援を実施してください。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していただくことが必要です。

結果	採用
担当課から	平成29年度から関市ひとり親家庭の子ども学習支援事業を業務委託

の回答	<p>しています。</p> <p>令和4年度は、NPO法人子援隊（平成29年度開始）が週2回、NPO法人ヘルシーライフせき（令和4年度開始）が週1回実施しています。</p> <p>また、平成30年度にときめき市民活動助成金の交付を受けた西部地区のいちょうの会が、地域の子どもの居場所づくりの活動をする中で学習支援を行っています。</p>
-----	--



提案
6

「子ども食堂の実施」（福祉政策課）

概要）学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	<p>平成29年度から関市子ども食堂運営事業補助金を交付しています。</p> <p>令和4年度は、NPO法人ヘルシーライフせきが月2回子ども食堂を開設していますが、学習支援事業と併せて委託しているため、補助金交付団体は存在していません。</p> <p>また、西部地区いちょうの会による子どもの居場所づくり（学習支援）活動の中に軽食提供があります。</p> <p>なお、道の駅むげ川で行っていた武芸川子ども食堂は、道の駅休館にあわせて現在は活動を休止しています。</p>

【第5期】



提案
1

「子どもミュージアム商店街の初期費用のサポート」（商工課）

概要）商店街を主として、親子が商店の仕事を体験できるイベントを定期的で開催することを考えています。市には、実行委員会の発足の働きかけや、初年度のみ費用の補助及び事業の宣伝活動をお願いします。市と協働することで、実行する負担を軽減し、また、市と関連のある教育委員会等と通じることで、宣伝効果も高いと考えられます。

結果	採用
担当課からの回答	<p>商店街を中心とした実行委員会が主体として事業運営を担っており、市としては、令和元年度までは参加者募集のための小学校へのチラシ配布、当日の運営補助を行いました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため事業は中止となりました。</p>

が、R3 年度から事業を再開しています。

提案
2

『小瀬・池尻周遊観光』のオプションツアー(有償)作りの補助(観光交流課)

概要) 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください。将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための、ガイドの育成、ツアーの企画、立ち上げの広報等のお手伝いをお願いします。

結果	保留
担当課からの回答	周遊地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスさせていただきたいと考えます。

提案
3

「鵜飼乗船場での『小瀬・池尻周遊観光』マップ及び看板の設置」
(観光交流課)

概要) 看板と同時に、周遊するためのマップを作ってください。<設置場所: 鵜飼乗船場、各鵜匠の家、関観光ホテル、円空館、市内の各スポット等>

結果	採用
担当課からの回答	池尻周遊観光の看板は設置いたしました。関市周遊観光のマップについては既存の観光マップで対応しています。

提案
4

「大学と市が連携した講義の提供」(市民協働課)

概要) 関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。

結果	採用
担当課からの回答	中部学院大学では、平成 30 年度より地域の福祉やまちづくりを学ぶ機会を提供する授業を年 1 回実施しています。 また、岐阜医療科学大学では、ボランティア技法の授業の中で、市職員が大学に行き、学生が提案する地域課題解決事業の意見交換を実施しています。

提案
5

「大学と市民合同の関市を知って楽しむサークルの立上げを支援する
コーディネーターの設置」(市民協働課)

概要) 今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内で行えるようにしていくことが望ましいと考えます。

結果	採用
担当課からの回答	市民協働課と市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討しています。サークルという形を作るには、メンバーを必要とし、継続することに課題があります。令和3年度は、学生ボランティアネットワーク(仮)の連携を踏まえて、岐阜医療科学大学、中部学院大学と調整しながら、学生と地域の関わりについて、調査をしました。今後は、市民協働課による若者事業として進めていき、市民活動センターと連携しながら若者の支援をしていきます。

提案
6

「広報せきでの大学生向けの情報発信」(秘書広報課)

概要) 住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

結果	採用
担当課からの回答	<p>広報は、市の取り組み、市民生活に役立つ情報などを広く周知することを目的とした刊行物であり、店舗やアルバイト、クーポン情報などを掲載する雑誌とは差別化しています。</p> <p>また、広報は幅広い年齢層の方々に役立つ情報を掲載していますので、大学生の生活においてもご活用いただける内容となっています。平成31年1月からは、若者にも手に取ってもらえるよう表紙をはじめとしてイメージを一新して製作しています。</p>

【第6期】



提案
1

「昼間の観覧船を活用したツアーの実施及び
様々な人や団体が昼間の観覧船を活用できる仕組みづくり」(観光課)

概要) 小瀬周辺地域を楽しむツアーと観覧船の乗船をセットにした企画を実施してください。また、より多くの人や団体が、観覧船を活用できる仕組みづくりとして、昼間の観覧船を活用する場合の、金額や時間等明確なメニューやルールをつくることや、船の費用の補助を検討してください。

結果	採用
実施状況	現在、昼間の時間や空き時間の船の利用について紹介いたしましたが、関遊船株式会社の利益の見込みが立っていないため、具体的な企画立案に至っていません。



提案
2

「子どもたちの定期的な川遊びプログラムの実施」(観光課)

概要) 関の魅力的な資源として、川に親しみ育つことが当たり前になるために、定期的に川遊びプログラムを実施してください。また、子どもが川に親しむことが当たり前になるためには、親も川を親しむことが必要です。そのために、川遊びができる親を育てるプログラムや、川の危険性を学ぶプログラムの実施してください。この企画の運営には、川の達人を集めた団体ができ、実施を担うことが理想です。そのために、当初は、市民活動助成金の行政提案メニューである「いきいき」助成金にて、公募するところから始めてもらうことが良いと考えます。

結果	採用
実施状況	ご提案いただいた通りまさに市民活動であるため、助成金を活用し活動いただける団体、個人の方が活躍いただけることを期待しております。



提案
3

「民泊経験者を交えた民泊に関する説明会の定期開催」(観光課)

概要) 1ヶ月に1回程度など定期的に、市民に向けて民泊の状況や、法律、申請方法に関する説明会を設けてください。また、その説明会に市民の民泊経験者による体験談を話す機会を設けてください。

結果	採用
実施状況	2019 年まで、刃物まつり開催期間中にイベント民泊を開催し、民泊を周知する事業として実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント民泊を中止しています。



提案
4

「関市内の民泊実施者の情報及び民泊の始め方の事例集約・閲覧」（観光課）

概要) 関市内の民泊を実施した市民がどこで実施しているかをリーフレットのような形で集約してください。また、民泊の始め方（どのように家族の協力を得たのか、どのような手順で始めるに至ったのかなど）を集めた事例を民泊説明会時に渡すなど、情報として発信し、民泊を始めたい方へ周知してください。

結果	採用
実施状況	詳細につきましては民泊サイトをご覧ください。



提案
5

「ボランティアネットワークづくり」（市民協働課）

概要) 大学内にはボランティア活動を行う団体がいくつかあります。これらの団体と、ボランティアを必要とする地域へ呼びかけていただき、両者をつなぐネットワークの立ち上げを主導して行ってください。

結果	採用
実施状況	令和3年度は、岐阜医療科学大学、中部学院大学と調整しながら、学生と地域の関わりについて調査しました。今後は、市民協働課の「若者チャレンジ支援コーディネーター」による、大学生と地域を繋ぐようなネットワークづくりを進めていきます。



提案
6

「ボランティア受け入れ側への研修・コーディネート」（市民協働課）

概要) ボランティアや大学生の協力を必要とする地域団体（受入側）に対して、プロジェクト型ボランティアとして募集できるように、指導してください。大学生との窓口は提案 1 のネットワークからつなぎたいと考えます。地域団体独自でボランティア募集をかける前に、ボランティア内容、目的、期間、募集人数、参加方法、得られる経験などをきちんと明確にし、大学生にとって参加したいと思えるボランティア募集内容作りへのアドバイスをネットワークに参加し地域団体へ行ってください。

結果	採用
実施状況	地域委員会を対象に岐阜NPOセンターが実施している「ボランティアの受入側の研修」の案内を送付しました。令和3年10月に市民活動センターと協働でボランティア受入側の研修を開催しました。

【第7期】

提案
1

高齢者世帯に対して、「防災チケット」を発行してください。(危機管理課)

概要) 防災に関心のなかった高齢者が、事前の備えについて確認できるよう、減災のアクションが一覧になった「防災チケット」を渡してください。

結果	不採用
担当課からの回答	世帯構成や住居、所持品などの違いにより、各世帯によって必要、不必要の差やサービス内容が大きく異なる可能性があること、また無料で実施することは資材・人材的にも非現実的です。昨年度、全戸配布した「防災ガイドブック」の内容と重なる部分があるので、出前講座や防災訓練などのなかでの意識啓発と各世帯での災害対策の実践により対応したいと考えます。 また、今後も有効な防災対策について検討していくとともに、市内の防災士が活躍できるようつながりや人材育成も行いたいと考えます。

提案
2

「防災チケット」を、高齢者に関わりのある人から渡してください。
また、その団体に対して、防災の講習会を開催してください。(福祉政策課)

概要) 提案1の「防災チケット」を、民生委員や自治会、社会福祉協議会など、普段から高齢者に関わりのある人から手渡し、ともに確認しながら、本人に説明してください。また、それら団体に防災の講習会を開催してください。

結果	不採用
担当課からの回答	民生委員児童委員は、特別職の地方公務員であり、ボランティアとして活動しています。相談や支援及び助言や行政等との連絡調整などは行っていますが、防災も含め指導する立場ではありません。要配慮者への支援については、すべての人の関わりが必要であると考えます。民生委員児童委員の立場に関わらず、いち市民として防災講習に参加していただければと思います。



提案
3

コミュニティバスの「乗り方」を説明した動画（コマ送り動画）を作成してください。（都市計画課）

概要) バスの乗り方は各地で異なり、それがよく分からないがために乗ることに繋がらない点があります。バスの乗り方を動画で説明し、web サイトや、バス停で QR コードが読み取れるようにしてください。



提案
4

高校生（若者）へおすすめしたいスポットへのバスでの行き方を、楽しい動画（コマ送り動画）で作成してください。（都市計画課）

概要) 動画は高校生がアクセスしやすく、目的地までのバスでの行き方を紹介することで、コミュニティバスの利用が促進できると考えます。また、高校生が身近に感じるシチュエーション動画が望ましいです。高校生たちが憧れるユーチューバーに監修に入ってもらい、高校生や若者を中心とした動画制作チームを作ると、より楽しいコンテンツが生まれると考えます。

結果	採用
担当課からの回答	実施にあたり、令和2年8月に、市民協働課や市民活動センターと今後の進め方について事前打ち合わせを実施しました。同年9月に動画撮影に協力してくれる若者への協力依頼と意見交換を行い、@SEKIチームや若者と動画の構想やお勧めスポット等について会議を行いました。令和3年2月に、ユーチューブの関市公式チャンネルにて、「若者たちがおすすめしたいスポットへのバスでの行き方（西エリア）」と「バスの乗り方」を分かりやすく説明した2本の動画の配信を開始しました。



提案
5

パパが主役になれて、夫婦で参加が可能な託児付きの子育て講座を実施してください。（子ども家庭課）

概要) 夫婦のパートナーシップを築くには、当事者同士だけでは難しいため、講座という形で、夫婦の時間づくりを行政がサポートする必要があると考えます。パパが主役の「料理講座」や「夫婦のコミュニケーション」がとれる講座など、行政だけでなく、子育て世代の声を取り入れて企画することが望ましいです。

結果	採用
実施状況	<p>令和2年度 関市いきいき市民活動助成金(協働型)事業として実施することとし、令和2年度の講座内容に関する助言等を行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講座の開催には至っていません。</p> <p>令和3年度についても上記助成金事業の公募をしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、応募団体もなく、実施に至っていません。</p>

【第8期】



地域委員会のアドバイザーとして、農業委員が協力してください。(農林課)

概要) 地域委員会が地域内の休耕地を活用する主体として事業を行うとき、地域委員会の部会に、農業委員や農地利用最適化推進委員が関わり、農地の情報提供や、栽培方法等を指導してください。

結果	採用
実施状況	<p>現況は地域委員会等からの休耕地の利用相談はなく、今後検討を考えている地域があれば、相談に乗っていきたいと考えています。</p>



農地活用のスタートアップとして、「農地イキイキ再生週間」のような制度を市で設けてください。(農林課)

概要) 「農地イキイキ再生週間」とは、県が農業再生協議会と連携して、年度内に1週間を設定し、集中的かつ重点的に行なわれる荒廃農地解消活動です。この制度は土地の整備において非常に有効で、地域委員会が活用しやすいような制度として設けてください。

結果	採用
実施状況	<p>令和4年度実施に向けて、各地域の活動組織と協議を行うよう進めていきたいと考えています。</p>



提案
3

市役所のホームページ（ふれあい教室）に、関市の不登校に関するQ&Aを掲載してください。また、「広報せき」にも、その情報を掲載してください。
（学校教育課）

概要) 相談機関先の情報や、学校への対応について分かりやすくまとめたいただき、困ったときにいつでも情報にアクセスできるように、市のホームページに掲載してください。
また、その情報があることを、「広報せき」にQRコードを掲載するなど、定期的に発信してください。

結果	採用
実施状況	「ふれあい教室」のホームページに設けた「開室カレンダー」を掲載し、ふれあい教室に関わる Q&A や子どもに関わる悩みの市内相談機関の一覧などは継続して掲載しています。また、高等学校の情報を入手できるように進学情報のコーナーを設け、岐阜県立高校一覧表などにリンクを貼りました。



提案
4

子どもがふれあい教室まで通えるように、送迎サービスを実施してください。
（学校教育課）

概要) 小学生にとっては、ひとりでバスに乗ることが難しく、また、遠方の場合では、時間帯が合わないことが考えられます。ファミサポの送迎ボランティアのように、民間に委託するなど、既存のサービスとの連携を考えてください。

結果	採用
実施状況	現在小学生の入級者 12 名は、保護者が送迎をしています。送迎サービスの検討をしましたが、ふれあい教室を利用している児童生徒で毎日利用している者は少なく、定時で送迎を行う公共サービスはニーズに合いにくいと思われます。 また、オンライン授業システム「パルステップ」は導入したものの、問題演習だけでは児童生徒のニーズに合わず、現在は GIGA スクールのタブレットを利用して学校の課題や GIFU Web ラーニング等に取り組めるようにしています。



総合的な学習の時間に活用できるよう、地域の宝データベースを作成してください。（市民協働課、学校教育課）

概要) 地域委員会ごとに、「知っておくべき地域の歴史、自然」や「自分の地域にどんな企業何をやっているのか」、「地域に住んでいる特技がある人」などの情報を収集し、中学校区ごとに共有・活用してください。

結果	採用
実施状況	現在は各校から得られた情報をデータベース化し、活用できるよう整えています。



子ども達の地域の理解が進むよう、地域委員会主導による地域学習スタートアップセミナーを実施してください。（市民協働課、学校教育課）

概要) 地域学習の最初として、小学校、中学校の授業を3時間ほど地域委員会に依頼してください。子どもの主体的な学びになるように地域委員会がプログラムを考え、モデルケースとして数校で実施してください。

結果	採用
実施状況	現在は地域探検や総合的な学習の時間を利用した地域学習(上之保のゆず工場見学や林業体験など、地域の特産品に対する学習など)を実施しています。 今後は、学校側と地域委員会側の意向を確認しながら進めていくことが必要であると考えています。



学校と地域と行政がより連携できるよう、地域支援職員が地域学校協働コーディネーターを担ってください。（生涯学習課、市民協働課、学校教育課）

概要) 現在、地域支援職員の役割は曖昧な面もあり、まだまだ本来の役割を発揮できていません。地域支援職員は市職員であり、学校との連携も取りやすいと思われるため、地域支援職員 4 名の中から、1 名を学校コーディネーター担当とすることで、学校と地域と行政がより連携できると考えます。

結果	実施のため検討中
実施状況	各学校で教職員を地域学校協働コーディネーターと連携するための地域担

	<p>当職員として位置づけています(多くは教頭先生が兼務しているが、一部学校では主担当として配置している学校もあります)。</p> <p>なお、現在高齢福祉課の生活支援コーディネーターが10年以上教員経験を有し、地域にも顔が効くため、水面下で働きかけてもらっています。瀬尻地域や、富野地域などで地域に入り込んで活動しているため、学校との連携できるよう模索しています。</p> <p>また、昨年度まで県で地域学校協働担当を務めた方が今年度から安桜小学校長になられたことをきっかけに、安桜地区でも教員と地域のワークショップなどで感触をはかる予定にしています。コーディネーターを置くことが、地域学校協働連携の本質に合っているのかどうか、本年度中に結論を出す予定です。</p>
--	--

【第9期】



市民がどこに行っているかなどの観光調査をしてください。(企画広報課)

概要) 全市民を対象に、「関市民が市内で遊びに行く場所」や「普段の情報入手方法」、「情報発信に関心があるか」などの調査を行ってください。

結果	採用
実施状況	<p>令和3年11月から令和4年1月に実施したまちづくりアンケートにおいて、おすすめの場所やものなどを回答いただきました。</p> <p>他のアンケートと同様に、自然や刃物をおすすめとして、あげる方が多くありました。これからも市の特色であり宝である「自然」と「刃物」をより磨きをかけ、市民の誇りの醸成と市外から人を呼び込むメニューとして活用していきます。</p>



市民による情報発信を支援してください。(企画広報課)

概要) 自ら関市の魅力的な情報を発信する人を増やすために、市民の発信スキルを学べる機会や、交流の場を作ってください。

例：①発信スキル(文章、カメラ)を学べる講座の開催、②市民による発信チームの結成及び市民の発信の機会の提供、③交流の場づくり など

結果	採用
実施状況	<p>時代のニーズに合わせたご提案で、課内でも検討をしましたが、以下の理由で実施していません。</p>

	<p>①講座などは、生涯学習課、高齢者サロン、地域団体等で、すでに実施しています。学ぶ機会は多々あり、参加のハードルも決して高くないと考えています。</p> <p>②市では責任もって管理できないため、実施していません。 また、この課題に関しては、個人の熱を自由に発信してこそ、面白い発信となると考えています。</p> <p>③上記回答のとおり、市でネット上の場を設けることはできませんので、古民家あいせき、本町ベース、せきてらすなど、実体のある交流の場を、うまくご活用いただければと存じます。</p>
--	--



提案
3

関市の出身者が自身のスキルで地元へ貢献できる仕組み(仮名:ふるさと貢献バンク)をつくってください。(商工課、企画広報課、市民協働課)

概要) 関の企業や市民活動などにおいて、関市出身者がアドバイスを行うことや、そうした人材が兼業・副業として企業の業務を請け負い、遠方からでも地元へ貢献できる仕組みをつくってください。

(市民ニーズや出身者の専門家の掘り起こし、困りごとのプロジェクト化、マッチング、報酬制度の設計など)

結果	採用
実施状況	<p>関市出身者に限定していませんが、市でも副業人材を積極的に活用しようと取り組んでいます。</p> <p>まずは、実証実験としての位置づけで実施し、効果検証しながら進めたいと考えています。他市でも、同様な人材バンクの仕組みを活用しているため、内容について確認をしましたが、やはり、人材バンクの登録する側より、その方を活用する側のニーズが少ないと思われます。</p> <p>引き続き、市内在住の方でも、自分のスキルを活用した社会貢献を望む人もいるため、そのような人に活動する場を提供できるよう仕組みづくりを検討したい。</p>

提案
4

高齢男性の掘り出しをするため、「おじいちゃん自慢川柳」を開催してください。（高齢福祉課）

概要) 今回の実施事業のような、高齢男性の情報収集を目的とした事業を開催してください。また、集まった川柳をもとに、対象者に特技や、地域への貢献の意向など詳しくヒアリングし、活躍の意向がとれた高齢男性は、提案2の技術の部活動に登録してください。

結果	不採用
実施状況	より多くの情報を集める手段として提案いただきましたが、市では本年度に高齢者の実態(生活様式、健康状態等の確認)を把握するための調査を実施しました。本調査は、要介護認定を受けていない65歳以上の方すべて(約22,000人)を対象に実施し、現時点で半数以上の方からの回答を得ています。また、回答者名を記載いただいております。調査表の結果を基に個別にヒアリングを行い、人材の把握と確保が可能となっております。今後は集めた人材について、必要に応じて関係機関に情報共有したり、つないだりする予定です。

提案
5

技術の部活動をつくってください。（高齢福祉課）

概要) 高齢福祉課で考案しているアクティブシニアバンクの一つに、高齢男性の活躍の場として、チームで動ける「技術の部活動」をつくってください。高齢福祉課が音頭をとって、DIYや農業、修理作業など、提案3で集められたニーズをつなぐ役割を果たしてください。また、この活動があることを、退職後の男性にも周知できるよう、保険年金課やハローワーク、商工課「みんサポ」と連携して案内してください。

結果	採用
実施状況	<p>庁内で年2回プロジェクト会議を開催し、会議の場でニーズを把握することで、高齢者の活躍の場を広げる活動に繋がっています。</p> <p>現在の取組状況は、広報や市役所内に活動写真を掲示するほか、報道機関への情報提供、セミナーの場所を各ふれあいセンターとすることで、多くの人の目に触れるきっかけをつくってもらうようにすることや、事務局に見学を勧めるなど周知に努めています。</p> <p>なお、老人クラブやシルバー人材センターには、技術の部活動が発足できるよう働きかけを行っています。</p>



提案2につなげるために、部活参加者の自宅近くで、地域の困りごとを集約してください。(高齢福祉課)

概要) 自治会程度の範囲にある保育園や小中学校、企業、市民活動団体からの活動のニーズを収集し、提案2の技術の部活動の活躍の場につなげてください。(例: 保育園での看板製作など)

また、ニーズの募集には、市役所のホームページやSNS、あんしんメールを活用して広く募集をしてください。

結果	採用
実施状況	<p>プロジェクト会議や関係機関からの依頼により、本年度は、次のとおり活動しています。</p> <p>木育: 刃物会社や観光協会の依頼で、刃物の使い方や研ぎ方のセミナーのサポート役として派遣。</p> <p>保育: 保育園等の依頼で野外活動(森のようちえん)の見守りボランティアを実施。</p> <p>農業: 幼稚園の依頼で農業体験を実施。</p> <p>また、CSWと連携して地域の困りごとをふれあいセンター単位で集約し、部活参加者の活動に繋げていくよう検討しています。</p>

社会人の若者が楽しめる関市を目指して

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市在住・在勤の独身の社会人の若者のつながりが
作れる場がたくさんある」関市です。

そのために、「関市には、独身の社会人の若者が楽しめる場所がない」という課
題に取り組むことにしました。

課題の原因は「若者が楽しめる魅力的な場所がない、若者向けのサークル活
動がない、若者が魅力を感じる情報が得られない」ことと考えます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、
私たちは「若者の官民協働の次世代マーケティング課の創設」を提案すること
で、関市の課題解決にもっと貢献することができると考えています。

だから私たちは「若者の官民協働の次世代マーケティング課の創設」により、
「関市在住・在勤の独身の社会人の若者がつながりが作れる場がたくさんある」

関市を実現します。

I 取り組んだ課題

独身の社会人の若者が楽しめる場所がない

【その理由と根拠】

課題の原因を探るため、対象者となる関市在住・在勤の独身の社会人の若者10名にヒアリングを実施しました。そこでは下記のような原因がみえてきました。

ヒアリングから出た課題の原因

① 若者が楽しめる魅力的な場所がない

ご飯の後行く場所に困る。おしゃれなカフェや公園がない。各務原イオンに行き、その後おしゃれなカフェや学びの森の公園に行く。美濃加茂市でもリバーポートパークのような場所で遊ぶ。

② 若者向けのサークル活動がない

ガチなサークルは敬遠される。ゆるめのサークルがよい。以前、農業サークルを作っていたが、そこではLINEに登録しておく、「今日はこんなことやります」という情報が流れてきて、行ける人が行くというスタイル。それだと長続きする。

③ 若者が魅力を感じる情報が得られない

インスタで情報をとるが、関の情報があまりない。勤めている豊田市ではインスタで調べると興味がある情報がたくさんでくる。広報せきは読まない。できれば、会社と家との往復になりがちなので、会社の掲示板に若者が楽しめる情報があればよい。



【課題に対する取組】

このテーマにおける課題の解決に向けて部会メンバーで議論しました。

部会第1回	それぞれの興味を共有し、議論
部会第2回	対象者の絞り込み
部会第3回	関市における若者が関われるサークル等を調査
部会第4回	対象者である若者へのヒアリング内容を検討
部会第5回	対象者である若者10人にヒアリングを実施
部会第6回	事業を考える
部会第7回	テスト事業の企画
部会第8回	テスト事業の実施
部会第9回	政策提案を考える

II 取り組んだ活動

若者がゆるく集う場づくりの勉強会の実施

- 日時 令和4年6月23日（木）18：30～20：00
- 場所 せきてらす 多目的ホール（平和通4丁目12番地1）
※オンライン参加と会場参加のハイブリッド開催
- テーマ 若者がゆるく集う「まちの部活」を考えよう
話題提供：松下 嘉広さん（一般社団法人ヒガシミノ団地代表理事）オンラインで登壇いただきました。
- 参加者 12名



Ⅲ その成果と見えてきた課題

実施後、部会メンバーで意見交換をしました。出てきた感想は以下のとおりです。

- ・行政が運営するよりも、市民が運営した方がやりたいことを自由にできる。
- ・web上だけではなく、実際の方が大切。その意味では、場所は「あいせき」が望ましい。ただ、あいせきは現状、コミュニティづくりまではできていない。
- ・リーダー、コーディネーターが必要。コミュニティづくりを率先して実施する調整役が必要。情報の発信が大切。

Ⅳ 提案と提案理由

提案	公募による若者と行政1,2年目の行政職員による仮想の課「次世代マーケティング課」をつくって、若者に特化した事業を実施してください。
提案する課	市民協働課
概要	<p>官民協働による、仮想の課「次世代マーケティング課」をつくります。 ※この課は福井県鯖江市の「JK課」のように本来の部署ではなく、この実行委員会委員会の名称です。 そこで実施することは、若者向け事業とマーケティングを学びます。</p> <p>【メインの対象とする若者】 関市在住・在勤の独身の社会人</p> <p>■具体的に取り組むこと</p> <p>【事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 行政各課と協働で若者向けイベントの企画運営を実施 ② 自分達でイベントを企画 ③ 若者等から企画を持ち込んでもらって一緒に取り組む ④ イベントチームの立ち上げサポートにより、新たなコミュニティをつくる <p>【研修】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① マーケティング研修 <p>マーケティング研修を実践し、成果を上げている企業等から学び、若者向けイベントを多数開催します。</p>

チーム「わかもの」

	<p>想定される流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公募チームの立ち上げ 2) 若者がイベント運用を学ぶ 3) 運用コンセプトや戦略を立てる 4) 行政の若者向けイベントの調査
提案理由	<p>今回課題の原因として上がった、若者が楽しめる魅力的な場所がない、若者向けのサークル活動がない、若者が魅力を感じる情報が得られないという課題に対して、大切なのは当事者である若者自身が、継続的に企画運営していくことです。現在はその担い手がいません。また、若者は知識や経験が多くありません。マーケティング等の研修や企画の実施により、次の仕事につながる知識や経験が身につく、マーケティング思考を持った若者が関市や市役所の中で増えることにつながります。</p>
必要経費	<p>人件費、イベント開催費、広告費、研修費等</p>

● ゴミの分別意識の高い市民を育てるために ●

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「市民誰もがゴミの分別ができている」関市です。そのため

に、「ゴミの分別があまりできていない」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「情報を知らない、分別の意識が低い、収集場所へのアクセスが困

難な高齢者がいる」があげられますが、今回は特に「情報を知らない、分別の意識

が低い」ことに対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私

たちは「実情を知る地元住民である」強みを生かし

「ゴミ分別の情報の周知の徹底」を提案することで、関市の課題解決にもっとも貢

献することができると思っています。

だから私たちは「ゴミ分別の情報の周知の徹底」をすることで、

「市民誰もがゴミの分別ができている」関市を実現します。

I 取り組んだ課題

ゴミの分別があまりできていない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

まず、私たちは、環境課と清掃事務員の方々から、ゴミについて関市にはどんな問題が起きているのかをヒアリングしました。

すると、不法投棄や、自治会の脱会者増加によるゴミステーション管理の困難さ、ゴミが分別されていないなどの課題がありました。特にゴミが分別されていない課題については、「不燃ごみ」が分別されていないことがどの地域でも課題とされており、ひどいケースでは爆発事故が起きたこともあるという事が分かりました。

これらの課題から、私たちは「ゴミの分別があまりできていない」という課題を取り上げ、その原因を考察しました。ゴミの分別方法を知っている／知らない、分別が出来ている人／できていない人に分けて、それぞれの課題を踏まえながら、関市の課題とその原因を考えました。

関市では、ゴミの分別方法を周知するために「ゴミ分別カレンダー」や「市役所ホームページ」、「ゴミ分別アプリ『さんあ〜る』」を活用しています。しかし、分別の意識が低い人では、そもそもどこにどんな情報があるのか分からず、自分で調べようとする事は考えにくいです。そこで私たちは、「情報を知らない、分別の意識が低い」という原因について、取り組むことにしました。

分別方法 分別	知っている	知らない (知っているつもり)
できている	OK	<p>②情報を見ていない →情報を見てもらう</p> <p>※現在ある媒体 ・ゴミ分別カレンダー ・ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」 ・市のホームページ</p>
できていない	<p>③意識が低いor場所等の問題 ・面倒くさい ・市がやるものと思っている ・ルールを理由を知らない ・場所へのアクセスに課題を持つ人</p> <p>→ルールを理由を知ってもらう・代替策をつくる</p>	<p>①意識が低い+情報を知らない ・自分で調べようとしない ・ルールの理由を知らない ・慣習になっていてNGであることを知らない</p> <p>→興味を持たせる・ルールの理由を知ってもらう・対象者が利用する媒体を使う</p>

Ⅱ 取り組んだ活動

調査活動

関市のゴミ分別についてのアンケートの実施

ゴミ分別において、関市民の課題がどこにあるのか、また現在の周知方法についてどう感じているのかを調査しました。

対象：関市民

アンケート回収方法：WEB アンケート

回収期間：6月28日（火）～7月31日（日）

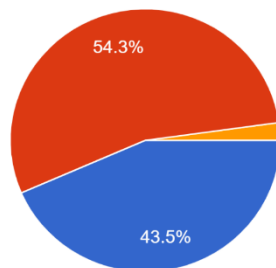
Ⅲ 実施結果

・アンケート結果

アンケート回収数：46件

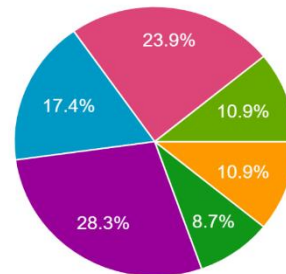
1. 性別
46件の回答

- 男性
- 女性
- その他



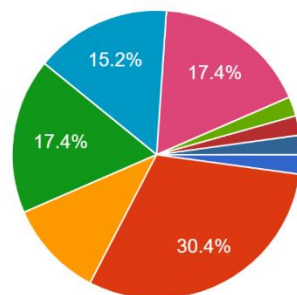
2. 年代
46件の回答

- 10代未満
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代以上



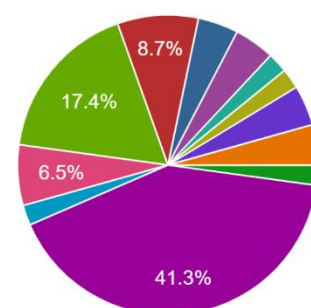
3. ご所属
46件の回答

- 学生
- 会社員
- 自営業(個人事業主)
- 専業主婦
- 外国人技能実習生・留学生
- 無職
- パート
- 公務員
- 団体職員
- アルバイト



4. お住まいの地域
46件の回答

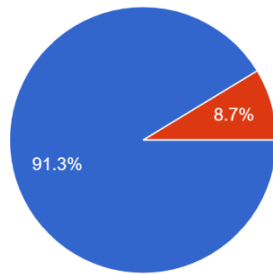
- 上之保
- 武儀
- 富野
- 富岡
- 田原
- 桜ヶ丘
- 旭ヶ丘
- 安桜



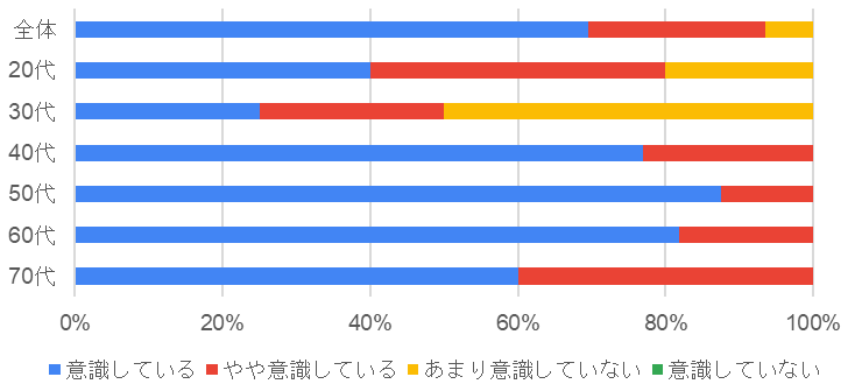
5. 自治会に加入していますか？

46件の回答

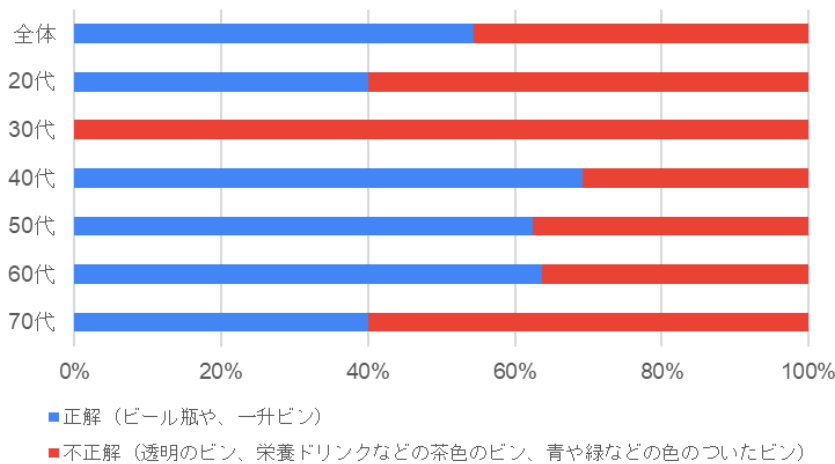
- 加入している
- 加入していない

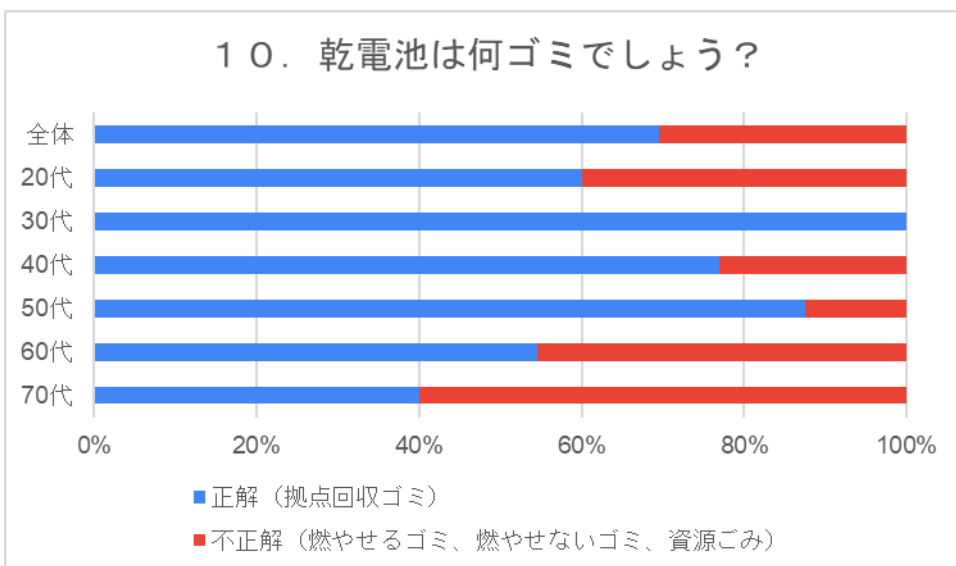
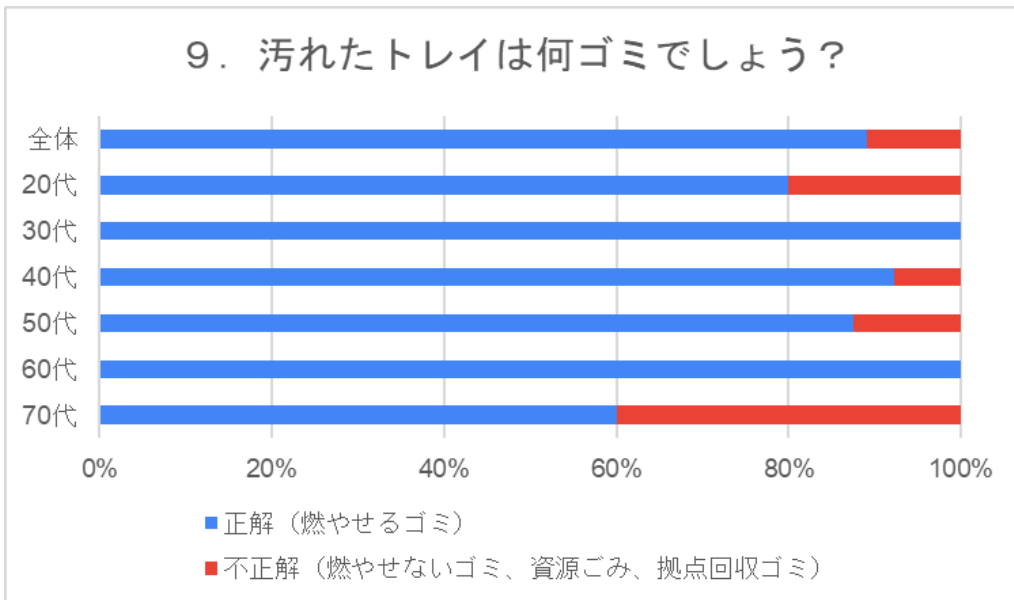
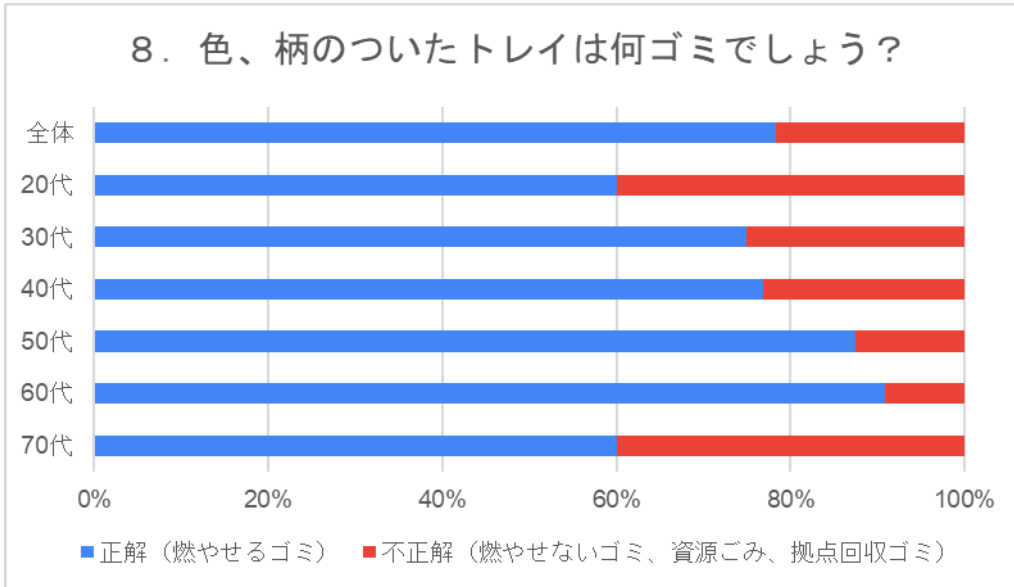


6. ゴミの分別について、普段から意識していますか。

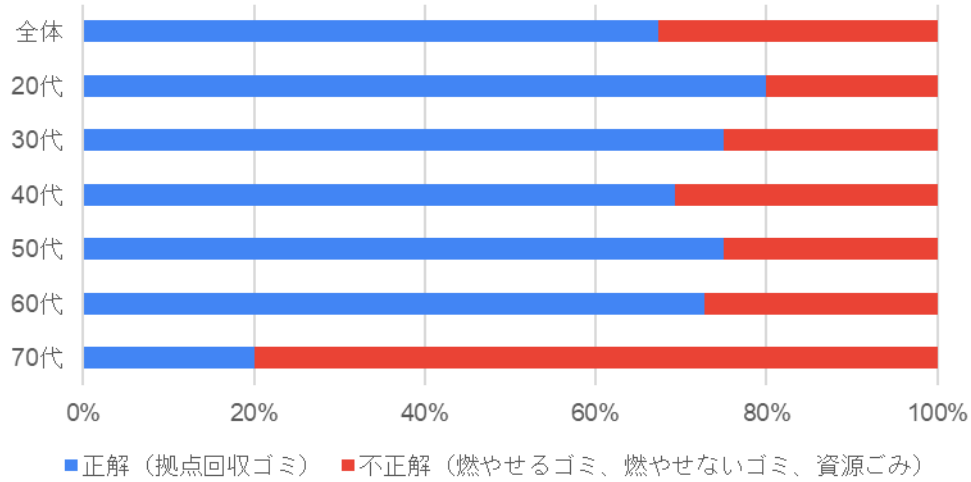


7. 「生ビン」とは何を指しますか？

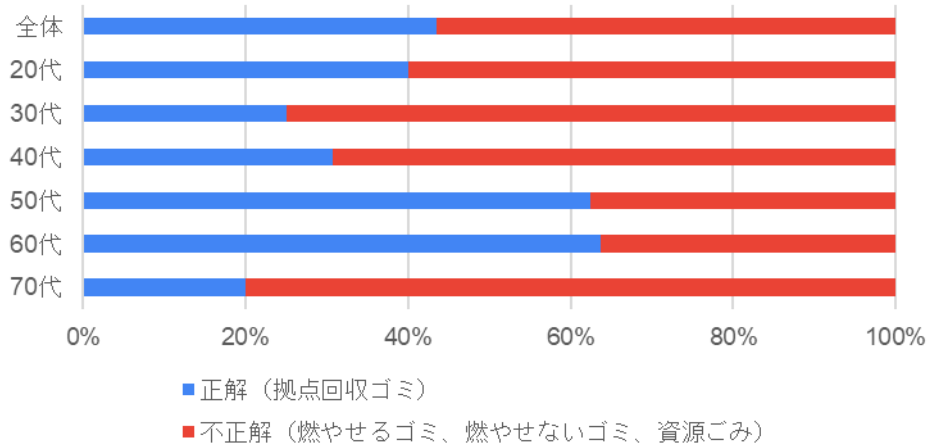




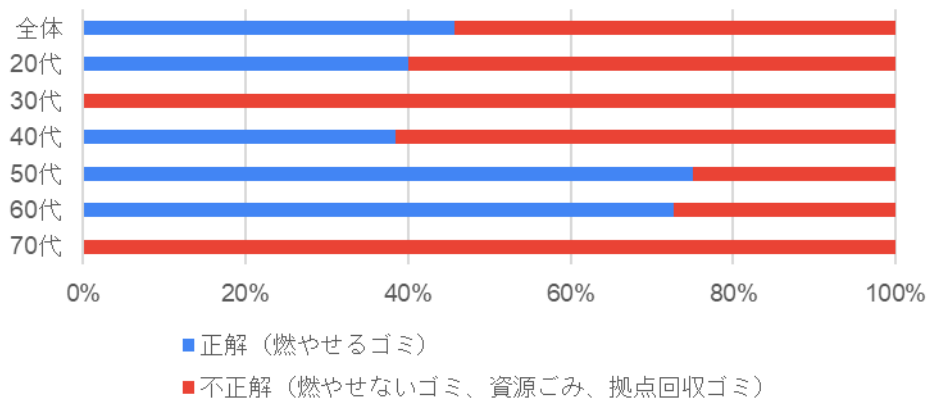
1 1. モバイルバッテリーは何ゴミでしょう？



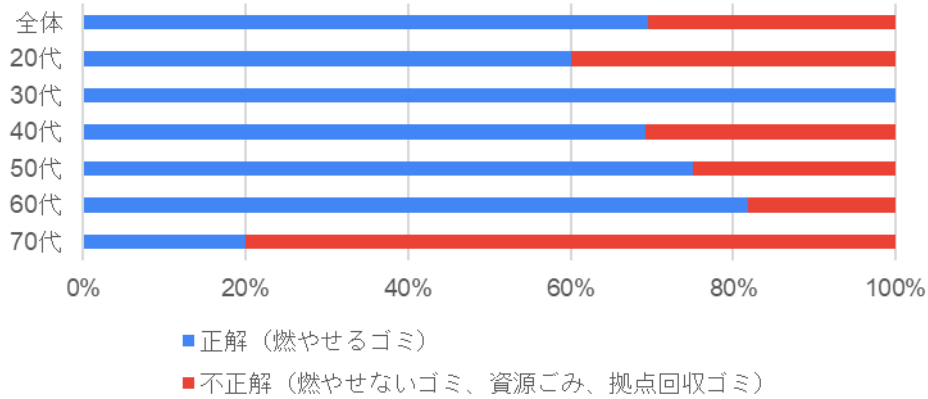
1 2. 蛍光灯は何ゴミでしょう？



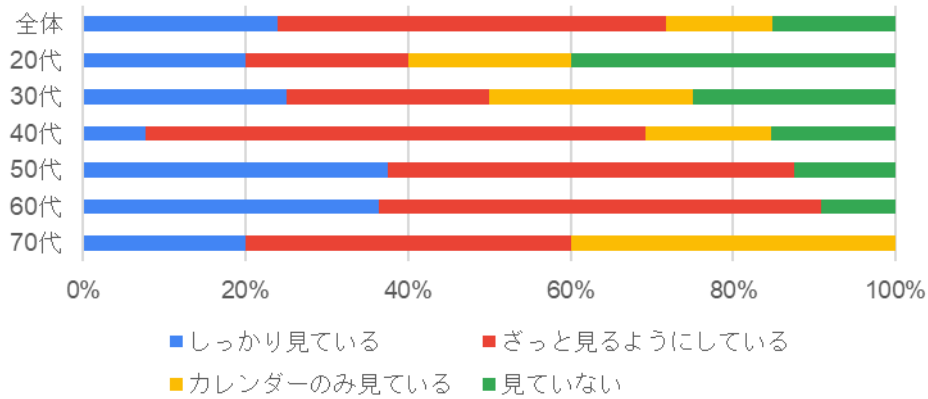
1 3. 色のついたペットボトルは何ゴミでしょう？



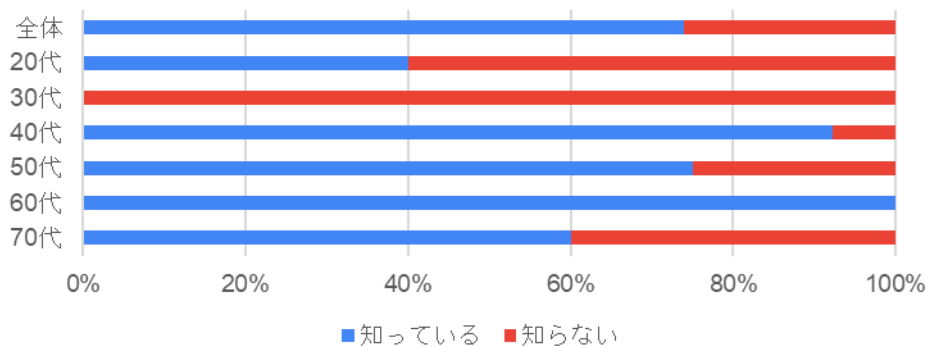
14. ラベルがはがれないなどの、汚れたペットボトルは何ゴミでしょう？



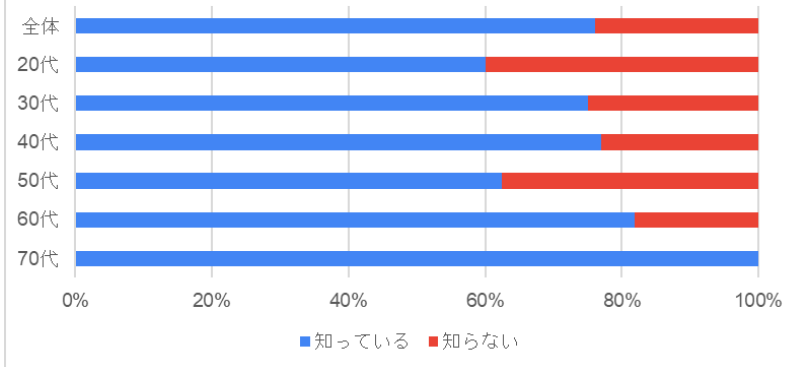
15. 関市から配布される「ゴミ収集カレンダー」を読んでいますか？



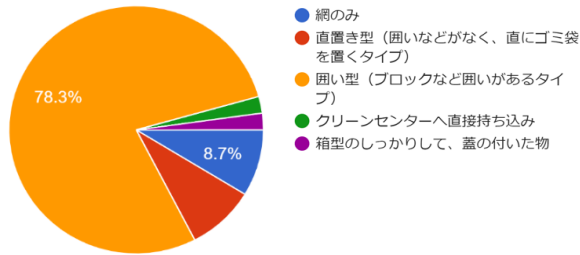
16. 関市でもゴミの分別がされていないため、清掃収集作業員が（爆発事故など）危険な目に遭っていることをご存じですか。



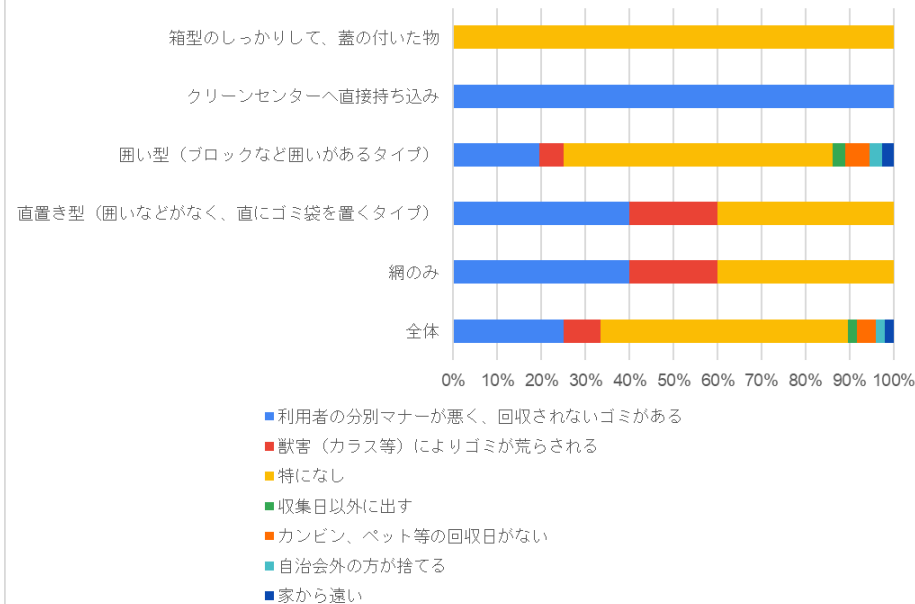
17. ゴミの水分量を減らすことにより、廃棄に係るコストが減らせることはご存じですか。



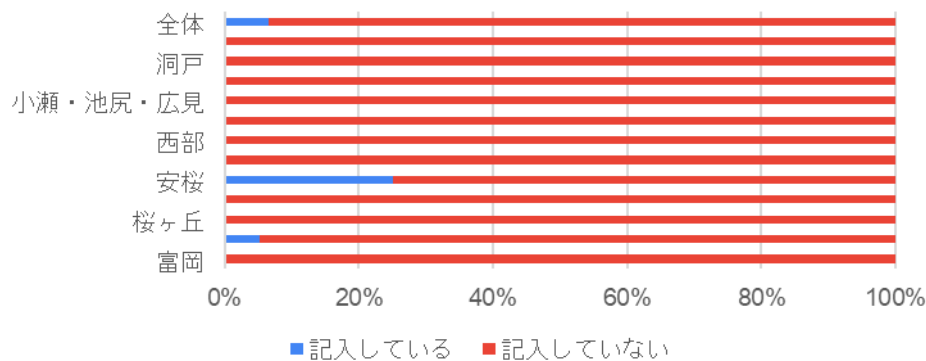
18. ご自身の利用しているゴミステーションの形式をご選択ください。
46件の回答



19. ご自身の利用しているゴミステーションで困っていることはありますか。
(複数回答可)

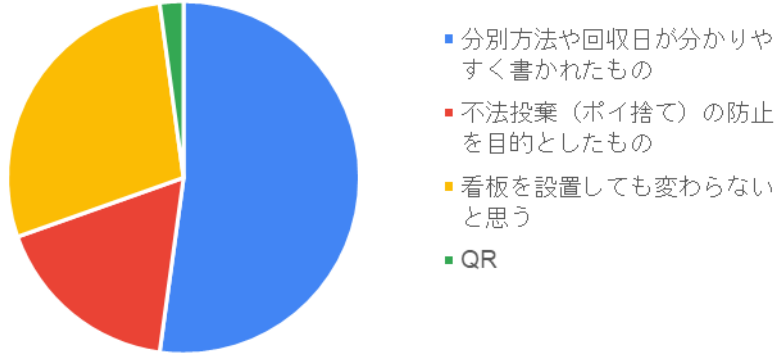


20. ご自身のゴミステーションでは、
ゴミ袋に氏名を記入していますか。

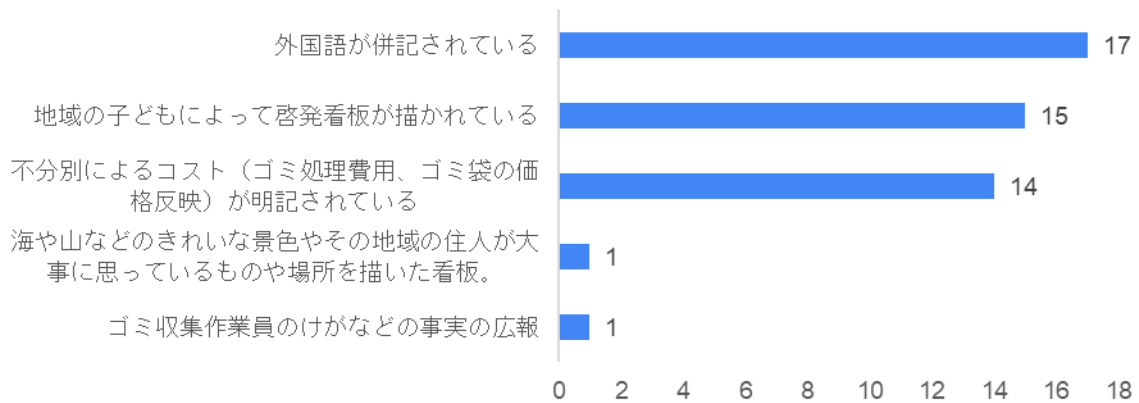


21. ゴミの分別マナーを守るために、工夫していることがあれば教えてください。	
回収しやすいように心がけています。	家庭において分別管理している
有色トレイを資源ごみに出す人がいて、張り紙をした。けど効果はありませんでした。	分別ルールを守る
自治会の会議での呼びかけ	事前に分別している
個人の意識次第かと	奥の方から置く
飲み終えた空の容器は水洗いだけでも速やかに行う。	箱はつぶして資源ごみに出す
家庭内での分別の徹底する	資源ごみへの意識
困ったら調べる	資源ゴミの仕分け
たくさんつめる	分からないものはネットで調べる
燃えないゴミ置き場を家に作ってある	その日の朝に出すこと
ゴミ袋をきちんと並べる。	資源ごみは洗って出す
疑問な点は、市役所担当部局への照会や、さんあ〜で確認	ペットボトルや白色トレイをしっかり洗う
生ゴミはなるべく水分を切るようにしている	入れすぎないようにしています
生ごみの水分をよく切る。	特になし、ルールを守っているくらい
分別に迷った時には、スマホなどで市の分別基準を確かめるようにしている。	回収日の朝にゴミの持ち込みをします。
マークをみる	仕分けを徹底
ゴミ袋に入れるとき分別する。	悩んだ時は確認する

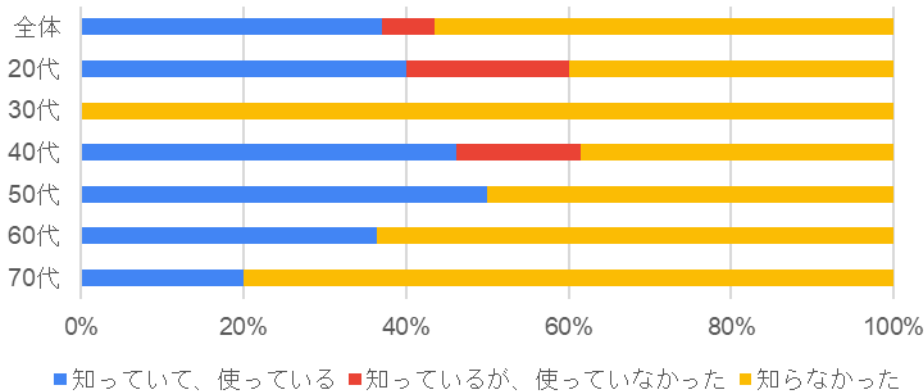
22. ゴミの分別マナーの啓発として、ゴミステーションに看板を設置するなら、どのような看板がいいと思いますか？



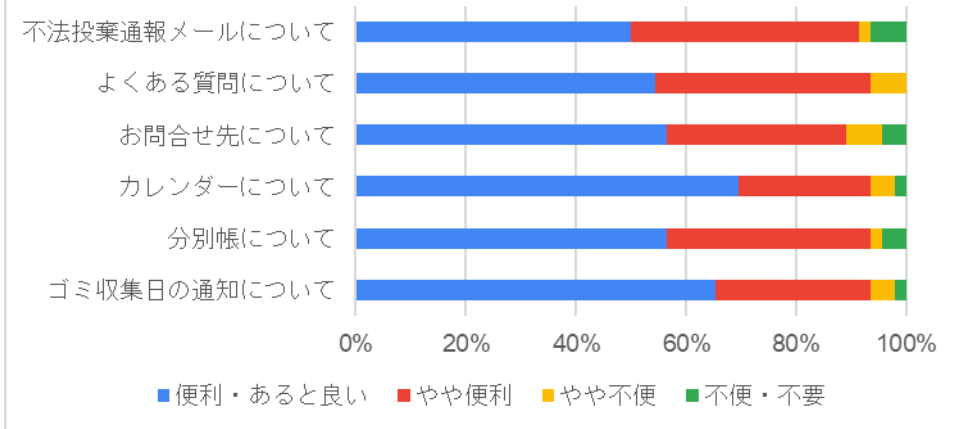
23. 質問22の看板について、効果的だと思う工夫を教えてください。（複数回答可）



24. 関市ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」を以前から知っていましたか。



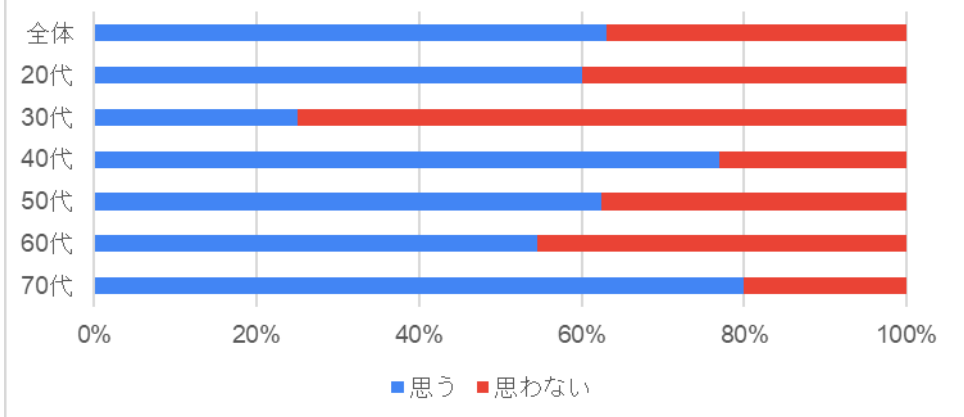
25. アプリの機能について



26. 質問25について、改善・または追加が必要と感じた機能があればご記入ください。

外国の人も分かりやすいようにすると良い。独居老人の人全員に通知できる仕組みがあると良い。	よくある質問の中で、分別でまよいやすい具体的な事例を取り上げるとよい。
これで良いと思う	ゴミを持ち込んだ時の料金
こんなゴミは何ゴミか、問い合わせできると良い	今後使用してみたら気づくことがあると思う
外国語に対応した機能	不法投棄
カメラを向けたらそれが何が分別とされるのかすぐにわかる。	不法投棄通報メール
よくある質問コーナーがあれば便利	ゴミの日は覚えれるのでいい
分別帳で、自分が探したいものの名称がない場合がある。家具や机はあるが、椅子はない、など。	まだ入れたばかりで使っていないのでわかりません。
分別帳のページを見やすく。	

27. 今後もこのアプリの利用を継続したいと思いますか。



チーム「ゴミ分別」

28. 質問27の回答選択の理由を教えてください。	
思う	思わない
ごみ収集カレンダーをネットで見ている以上の情報があるかもしれないから。	アパートの掲示板にゴミ回収日のカレンダーが貼ってあるので、アプリがなくても把握できる。
よくゴミ収集の日(特に燃えないゴミの日)を忘れがちなため	通知のタイミングを前日夜に。分別帳をもっと手軽に調べられるように
紙で配布されたものよりわかりやすいので。	特になし
分別で困ったとき利用できる	使ったことがない
忘れ防止になる。	いちいち見なければならぬから。
便利	使い勝手がわるい。
予定がすぐわかる	ページにたどり着くまでに時間がかかる。
すごく便利です	現在で満足
特になし	PC嫌いです。
ちょっとしたことを確認する時に便利だから。	使わないから
資源回収日がわかりやすい	面倒
スマホなら常に近くにあって、思いついた時調べることができる。	今までもこれからもきちんと分別をして出すからです。
分からないことなど、スマートフォンから調べることが多いから。	携帯にアプリを増やしたくないため。不明点はその都度ネットで調べる。
素晴らしい	今でも必要ない
少しでも分別が進むように願って	ダウンロードの必要性をかんじない
いざという時に便利です	特に必要にかんじないから
利用してみたいと思った	使い方がよくわからない
収集日の告知があるのが便利です	
可燃ごみを除く日を把握できる	
忘れなくていいと思う	
普段から資源ゴミを捨てる時に使うから	
紙を見なくてすむから	
ごみの分別で困った時に活用できる	
便利なので	
いつでもどこでも見れるから	
紙のカレンダー見るより見やすい	
ごみ収集日の通知、とても助かっています。	
わからない事を確認する事ができる	
便利	

チーム「ゴミ分別」

29. このアプリの利用を促進するために、どのような工夫があればよいと考えますか。	
こんな便利なアプリあるよとのアピール	自治会での広報やゴミステーションへの張り出し
アプリの使い方レクチャー	音声対応機能
全てのゴミ捨て場にアプリの QR コードを標示させる。	月に一度の回収についてはお知らせアラームがあると良い
もう少し啓発したらいいと思う	工夫というより自覚が大切だと思う
ポイント付与 ゴミ袋と交換	クイズやゲーム等の活用。
おおよその回収時間	紙が配られている限りいらぬ
機能や内容が限局的すぎると必要性が下がると思う。	市民のいろいろな行事などの場で、インストールを勧めるとよい。
ゴミステーションに QR コードを掲示 回覧板でお知らせ	市の関市安心メールなどともう少し有用性のあるものと結びつきをつけるといいかなと感じました。あとお得情報や資源ゴミを出した時にポイント性にして貰えるとアプリを利用しやすくなると思います
市広報紙などなど積極的な PR	ゴミに関するコラムの掲載
容量が軽い。	ゴミ袋1枚プレゼント
知名度が低い為、地域情報誌に QR を載せる	広報やゴミ収集所にダウンロード用 QR コードを設置する。
アプリの使い方をレクチャーする。	アプリを知ることが出来ていないので、周知する事が大事と考えます。
これまで同様、広報紙やゴミカレンダーなどでの周知。	知らない人が多いと思う。広報 LINE とかで案内する
音声対応。	便利さのアピール
あんしんメールで紹介する	市役所窓口での案内、自治会の回覧
文字を大きくする	今後使って考える。
周知・広報をすること	高齢者等にはむり
チラシの配布	

30. そのほか、ご感想があればご記入ください。	
やってね、だけではダメ。どうリサイクルされているのか分かれれば、面倒くさくてもやるのでは？	
高齢者が理解できるように分別方法に改善	
アプリの導入の狙いは？ 今後紙ベースの一覧を廃止の方向なのかなと思いました。	
回収日を多くして欲しい	
お疲れさまでした。	
色々な工夫をされているが浸透できていないのが残念・・・。	
ゴミ問題は地球規模の問題です。ゴミが出ないような工夫を企業もするべきだと思います。	

電池の回収場所をふれあいセンターなど、複数に増やしてほしい

ゴミの分別に不明点があります。例えば瓶の蓋はアルミ回収なのか、燃えないゴミなのか？とか、電球やライターなどの危険物はどうやって出すのがいいのか？とか、傘のような袋からどうしても出てしまうけど粗大ごみではないようなものはどうすればいいのか？など。
--

IV アンケートの結果から見えてきた課題

《見えてきた課題》

① ゴミ分別の意識は高いが、実際には分別が出来ていない

問6のゴミ分別について普段から意識している・やや意識しているという回答が多いのに対し、問7～14のクイズ形式で分別方法を確認した設問では、正答率が低い結果となりました。特に、蛍光灯や色のついたペットボトルの回答の不正解が多くみられました。

② ゴミ収集カレンダーでは実際に分別できるまでにつなげていない

ゴミ収集カレンダーについて、問15のゴミ収集カレンダーを見ているかという質問に対し、「ざっと見ている」「カレンダーのみ見ている」という回答が多い結果となりました。しかし、問7～14の設問の正答率は実際に低く、ゴミ収集カレンダーでは実際に分別できるまでにつなげていないと考えられます。分別方法についてカレンダーは細かく一覧になっていますが、その細かさゆえ、見ない人が多いのではないかと考えられます。

③ ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」は普及啓発が必要

アンケートから、現状の周知方法であるゴミ収集カレンダーでは分別の意識付けが不十分であることが分かりました。

また関市ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」については、問27の「継続して使いたいと思う」割合が全体で63%でした。問24では、「さんあ〜る」を「知らなかった」という回答が56.5%で、知らない人が多いものの、問25で実際に利用してもらった結果、それぞれの機能について「便利」という回答が得られました。「さんあ〜る」を便利と考えている人もいることを踏まえると、アプリの普及啓発が必要と考えます。

V 提案と提案理由

提案1	ゴミ収集カレンダー以外の手法で、分別の課題部分を特に周知してください！
提案	環境課

チーム「ゴミ分別」

する課	
概要	特に分別されていなくて問題となっているゴミについて、以下の 2 つの媒体を活用して、周知してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報せきでコラムを設ける ・ 自治会の回覧 クイズ形式、分別できていない収集場所を写真で紹介、清掃員へのインタビュー記事など、掲載方法を工夫してください。

提案 2	ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」を小中学校のタブレットに導入し、普及してください！
提案する課	環境課、学校教育課
概要	ゴミ分別アプリ「さんあ〜る」を小中学校のタブレットに導入し、小中学生の子供たちへ周知させてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの日を親に伝えるチャレンジ週間を設ける ・ 「ゴミ」をテーマとした調べ学習で使ってもらい、またその際には環境課に出前講座で来てもらう

提案の理由	<p>提案 1</p> <p>ゴミ収集カレンダーは分別情報を網羅していますが、分別情報を見ていない人が多いことが分かりました。今回の課題としたゴミの分別方法について、知らない市民もいるため、目立つように広報コラムや、自治会の回覧で周知してください。</p> <p>提案 2</p> <p>アプリケーションは、若い世代としては利用しやすいと考えます。しかし、20代～30代へ網羅的に周知することは難しいため、小中学生を対象に「さんあ〜る」を周知してはどうでしょうか。アプリを知った子どもが家族に伝えることで、ゴミの捨て方を理解する人が増えると考えられます。</p>
-------	---

VI 今後の展開

提案 2 の活動を実施することで、子どもたちが「さんあ〜る」を活用することが期待できます。更に、子どもたちを通じて、家族にもゴミの捨て方を理解する人が増えると考えられます。

また、今回のアンケートは回答者数が十分とは言えません。そのため、環境課として調査したうえで改善策を実施していただくことが望ましいと考えます。

子どもの体づくりの課題解決に向けて、
共に歩む関市へ！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「中学生(小学校高学年)が、自分の体づくり(栄養)について学び、特に実践することができる」関市です。そのために、「朝食の喫食率が低い」という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「親がその必要性を知らない・ケアしていない、朝食に焦点を当てた取り組みがない、長期休業中の給食に代わる支援がない」ことがあげられますが、今回は特に「朝食に焦点を当てた取り組みがない」ことに対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「栄養士がいる」強みを生かし「朝ごはんレシピコンテストの活用」及び「活動団体の支援」を提案することで、

関市の課題解決にもっとも貢献できると考えています。

そこで、私たちは「朝ごはんレシピコンテストの活用」及び「活動団体の支援」をすることで、

「中学生(小学校高学年)が、自分の体づくり(栄養)について学び、特に実践することができる」関市を実現します。

I 取り組んだ課題

朝食に焦点を当てた取り組みがない

【その理由と根拠】

このテーマにおいて、私たちは、「中学生の食育」に注目しました。特に成長期である中学生となると、ごはんをしっかり食べなければ、学習や体力にも影響が出ます。また、この時期から食事の大切さを学んでおくことで、偏った食事生活や、誤ったダイエットなどへの行動が抑えられます。そのため、多くの子どもたちに働きかけられるよう、成長期である中学生（小学校高学年）を対象にしました。

まず、私たちは、中学生の食育について関市にはどんな問題が起きているのかを調査しました。

「第2次関市食育推進基本計画」によると、学童期（6～15歳）には、以下のことが食育推進のための具体的な取り組みとされています。

- ① 「早ね早おき朝ごはん」で、正しい生活習慣を身につける。
- ② 規則正しい生活に心がけ、朝・昼・夕 3食きちんと食べる。
- ③ 学校給食をお手本に、うす味や自分に必要な食事内容や量を理解する。
- ④ 家族や友だちと、楽しく食事をする時間を持つ。
- ⑤ 家族と一緒に料理や野菜の栽培をするなど、食の体験活動に取り組む。
- ⑥ 子どもだけで料理にチャレンジする。
- ⑦ 正しい食事マナーや姿勢に心がける。

これについて、学校では以下のような取り組みが行われています。

関連事業	内容	担当課
総合的な学習、行事等の時間を活用した地域生産者等による食育事業	給食の時間に食材の生産者等を招いて話を聞く、また地域の住民、団体、生産者、食品関連業者等を講師とし、学校単位で野菜や米づくり、収穫体験等を通じた食農教育に取り組む。	学校教育課
小中学校における正しい食生活・栄養について学習する場の充実	食に関する年間指導計画に基づき教科、学級活動、総合的な学習等の時間を活用し、学年ごとにテーマを絞り、食に関する指導を行う。	学校教育課

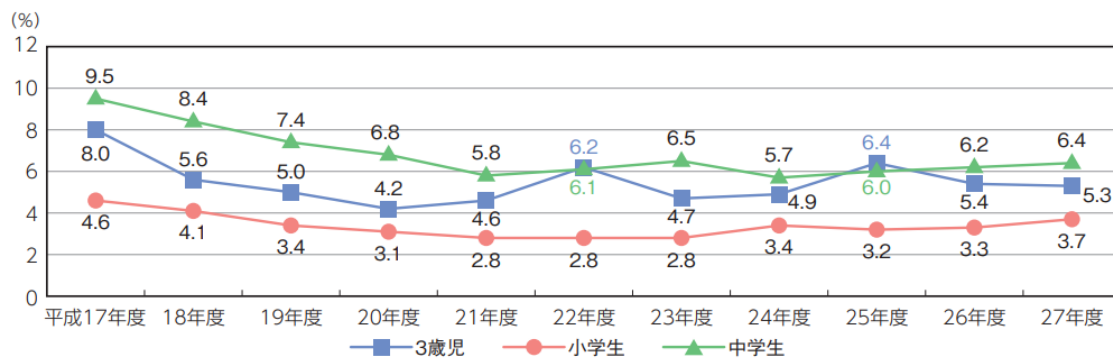
私たちは関連する給食センターの栄養教諭へ具体的な活動をヒアリングしたところ、「学校によりニーズが異なり、実施内容はさまざまである」という回答をいただきました。

チーム「中学生の食育」

特に「朝ごはん」に関する活動に関しては、授業の中で触れることはあっても、子どもたちの実践に向けた取り組みを行うのは授業時間数的にも困難であるということが分かりました。

また、岐阜県の「第3次 岐阜県食育推進基本計画」によると、朝食の欠食について、小・中学校では、朝食の欠食をなくすよう様々な取り組みが行われているものの、朝食欠食率0%には達しておらず、この背景には、保護者自身の食習慣、生活の困窮などが影響していると考えられます。通常は給食がありますが、夏休みなど長期休業期間では、ご飯を食べられる機会が減ってしまうということも課題であると考えられます。

図24 子供の朝食欠食率の推移（岐阜県）



出典：3歳児食生活実態調査（保健医療課）・学校給食等実態調査（体育健康課）

これらの課題から、私たちは「朝食に焦点を当てた取り組みがない」という課題に対し、取り組むことにしました。

II 取り組んだ活動

① 関市の団体へのヒアリングの実施

関市で親子の居場所づくりや食育活動を目的に活動する「NPO 法人ヘルシーライフせき」さんの「せきまちなか子どもカフェ」の活動もヒアリングしました。

② 「お昼だけ朝ごはんつくろ！」イベント及び Youtube 配信の実施

「子どもが朝食の大切さを知り、自分でつくる」ことを目的に、朝食のメニュー数点をつくる料理教室を開催しました。また、イベントの参加者だけでなく、配信することでいつでも・誰でも参加できると考え、同メニューの作り方を動画にして配信しました。



日時：7月2日（土）10:30～13:00

場所：西部ふれあいセンター（小屋名 110）

参加費：無料

対象：関市内の中学生

内容：朝ご飯用のメニュー数種の作り方を学び、
実際に作って食べる。

定員：10名程度

メニュー：サーモンチーズごはん、パワーボール、ココアフレンチトースト、サンドイッチ、オートミールスープ、豆乳ホットケーキ、焼きバナナ

III 実施結果

① について

せきまちなか子どもカフェ 概要 スタッフ 10名、現在の利用者 13人
子どもカフェ:

活動時間:毎月第3土曜・第4土曜 10:00～ 食育、学習など
12:00～ ランチ(現在はお弁当持ち帰り)活動

場所:千手院境内「秋葉殿」

学習:

活動時間:毎週水曜 18:00～20:00 夕ご飯タイム有り

場所:団体事務所

代表の土屋ひろ子さんによると、コロナ禍からはお弁当配布に切り替えているが、それ

チーム「中学生の食育」

以前は料理教室として、ケーキづくりや、炊飯器を使ったパスタづくり、卵焼きづくり、はさみで切るレシピの実践など、子どもたちが自分で料理できるように工夫した活動をしていました。

② について

参加者：9名

参加者からの声：

- ・ 普段作らないものを作れて楽しかった。
- ・ 実際に家で作ってみようと思った。
- ・ ポリュームがあった。
- ・ ホットケーキを家で作ってみた。





オートミール スープ (2種)

オートミール×卵の中華風スープ (1人分)
材料 オートミール 30g、溶き卵 1個分、長ねぎ 1/4本 (40g)、水 300cc、鶏ガラスープの素 小さじ1/3、塩 小さじ1/4

作り方
①ねぎは小口切りにする。
②鍋に水、鶏ガラスープの素、塩、オートミールを入れて混ぜ、ふたをする。オートミールが柔らかくなるまで弱火で4～5分煮る。
※ときおり、ふたをずらすなどして吹きこぼれに注意。
③溶き卵を回し入れ、ひと蒸立ちして卵がふわっとするまで加熱する。

オートミール×かぼちゃのポタージュ (1人分)
材料 オートミール30g、水 150g、市販のポタージュ 1袋、(お好みで パセリ 適量)

作り方
①耐熱カップにオートミールと分量の水を入れ、ふんわりとラップをかけて電子レンジ (600w) で1分30秒加熱する。
②市販のポタージュを加えてよく混ぜ、好みでパセリをふる。

オートミールはグラノーラの原料となる穀物で、海外では朝食として一般的です。豊富な甘味や油分を含まない分カロリーが低く、ダイエットや健康にもとても良い食材として、近年人気を集めています。

主な栄養素

- 体をつくる
- 卵
- エネルギーになる
- 糖 オートミール
- 体の調子を整える
- オートミール
- ねぎ

栄養まめ知識
オートミールには、「水溶性食物繊維」と「不溶性食物繊維」という2種類の食物繊維が豊富に含まれています。水溶性食物繊維は、腸内の善玉菌を増やし、血液中のコレステロールを低下させる効果があり、便秘解消につながります。不溶性食物繊維は、腸内で水分を吸収して膨らむため、便の力さを増やし、腸のぜん動運動を活性化させ、便通を促進させます。また、オートミールは「低GI食品」とも呼ばれ、血糖値の上昇を緩やかにしてくれます。



▲ イベント当日に配布したレシピとメニューの
栄養まめ知識

▲ Youtube 動画



IV 実施事業から見えてきた課題

《見えてきた課題》

① 動画制作のハードルがある

今回は委員にて動画を制作しましたが、映像の完成度が難しく、動画制作に長けた人による配信が必要と感じました。また、一般的な料理動画では他の料理動画と変わらないため、「材料が安い」、「早く作れる」、「おいしい」、「栄養バランスがとれている」ことを目的とした動画であることが望まれます。

② Youtube 配信と活用手段を併せて考える必要がある

動画配信は多くの人目に触れる可能性がある半面、視聴者を増やす方策が必要です。PRの仕方や、活用方法も同時に検討される必要があることが分かりました。

③ イベントでは、興味のある子どもしか参加しない

今回のイベントは募集定員を満たしましたが、男子生徒の参加がなく、また普段朝食を食べている子どもたちによる参加でした。朝食を食べない子どもたちを対象とするならば、参加までの動線（身近な場所、広報手段、興味を引く内容）や、別の手法として、「気軽に食べられる機会」が必要です。

④ 団体が取り組みやすい形を作る必要がある

子どもたちが「食べられる機会」としては、ヘルシーライフせきさんのような市民活動団体による取り組みがあります。しかし、土屋さんから「今以上の人数を受け付けられない」ことや、「活動費」の問題、また子ども家庭課の委託事業のため、「対象者が限定されてしまう」ことをお聞きしました。

子どもに食事を提供する活動を行う団体は、関市では4か所ありました（まちなか子どもカフェ、子ども家庭支援センターとも、寺子屋いちょう庵、むげ川子ども食堂）ありましたが、コロナ禍等の理由で活動を辞めた団体もあり、現在継続して活動しているのは2団体です。取り組む団体は決して多いとはいえ、また目的もさまざま、現在朝食に焦点を当てて取り組む団体はありません。そのため、朝食に焦点を当てて取り組む団体が複数必要です。

V 提案と提案理由

提案 1	「朝食レシピコンテスト」を開催し、配信動画を学校で活用してください！
提案する課	市民健康課、学校教育課
概要	<p>朝食レシピを広く公募し、市のホームページや、中学生が利用するタブレット、または学校の献立表に掲載してください。</p> <p>市民健康課： 「材料が安い」、「早く作れる」、「おいしい」、「栄養バランスがとれている」を審査基準とした朝食レシピコンテストを開催する。優秀なレシピは動画にし、市のホームページや、SNS で紹介する。</p> <p>学校教育課： 市民健康課で開催されたコンテストの優秀レシピを、学校事業に活用する。</p> <p>例： ・毎月の献立表にアップする。(QR コードを添付するなど) ・レシピ動画をタブレットに取り込み、「朝ごはんキャンペーン」で子どもたちに作って来てもらう。(読書週間などの、集中取組活動のイメージ)</p>

提案 2	子どもが家で朝食を作ることを目的とした活動を助成金事業で公募し、公募団体を支援してください！
提案する課	市民健康課、子ども家庭課（広報部分）
概要	<p>子どもが家で朝食を作ることを目的とした料理教室や活動を実施する団体を公募で集め、実施のサポートをしてください。</p> <p>例 料理教室： 朝食として手軽に、栄養バランスのあるメニューを子どもが作る。 場所：ふれあいセンター等 広報：対象者に届くよう、子ども家庭課の協力を通じて集客する。 対象者には子ども家庭課から無料券を配布し、一般は有料にするなど、対象者間の区別がつかないように配慮しながら、参加しやすい条件にする。</p> <p>支援：活動費（会場費、材料費、検便代等）の助成や、地域からの食材提供のサポート（高齢福祉課「アクティブシニア事業」の「農業」チームや、一般募集など）</p>

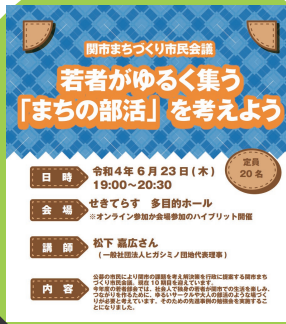
提案の理由	<p>提案1</p> <p>レシピコンテストだけでは、対象者に届くにはまだハードルがあると考えられます。日常の学校生活でもこのような取り組みを実施することで、対象者により伝えられます。子ども同士で結果を共有できることも、楽しく取り組むことにつながります。</p> <p>提案2</p> <p>子どもたちが朝食を自分で作れるまでには、その作り方を学ぶ機会が必要です。現在コロナの影響により、学校での調理実習も実施が難しいため、子どもたちが料理をする体験は必要とされています。子ども家庭課の協力も得ながら、実施団体を募集してください。公募をすることで、課題意識をもって取り組む団体が増えることにもつながります。</p>
--------------	---

VI 今後の展開

提案1では、レシピ動画制作について市が制作するだけでなく、関商工高等学校の「マルチメディア部」など、動画制作を得意とする人材があります。レシピコンテストで優秀とされたレシピの動画制作を高校生や市民へ依頼したり、動画制作コンテストのように公募したりするのもよいと考えます。または、「写真投稿コンテスト」として、まずは作る楽しさを実感してもらい、それを広くシェアする楽しさを作ることから始めてもよいと考えます。

提案2は、朝に実施できる活動であることが本来望ましいです。大阪市東淀川区・西淡路の小学校では、学校で市民が子どもたちに朝ごはんをつくる活動が行われています。現在はコロナ禍で活動が困難と思われませんが、将来的には子どもたちの来やすい学校で実施されることを望みます。また、市が管理するふれあいセンターなどの利用条件の変更なども検討されるのもよいと考えます。

また、今回は「親が朝食をとる必要性を知らない・ケアしていない」という課題に取り組みませんでした。朝食の大切さを親が知るための取り組みも必要です。



チーム「わかもの」

関市在住・在勤の独身の社会人が
つながる官民協働の次世代マーケティング課の創設

チーム「ゴミ分別」

ゴミ分別情報の周知徹底

チーム「中学生の食育」

中学生が自分の体づくり（栄養）に
ついて学び、実践できる機会づくり



第10期関市まちづくり市民会議

委員 チーム「わかもの」：朝倉 勝美 / 白石 知美 / 各務 直樹 / 池戸 麻子 / 末松 晃樹 /
永井 義人 / 武内 亜美 / 中村 美恵子

チーム「ゴミ分別」：土屋 隆 / 亀井 専 / 本間 貴久男 / 杉山 健二 / 木村 爽 /
土屋 和美

チーム「中学生の食育」：多田 富士夫 / 上野 まゆみ / 菊山 譲 / 梶山 貴子 /
村山 幸二 / 梅田 洋子 / 太田 進 / 奥村 理央

発行日 2022年8月28日

発行 関市まちづくり市民会議（事務局：関市市民活動センター）
関市千年町 2-18-1 安桜ふれあいプラザ 1F
TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660
E-mail info@seki-siminkatudo.com